

長野県内で戦争法案反対の集会が各地で開かれ、若者のスピーチが参加者を励ましています。その一部を紹介します。

長野



デモに先立ちリレートークでは、軽トラックのステーションから次々に発言が続きました。7月25日、長野市

## 引き継がれた命 私の未来を守る

◇21歳の女性(会社員) 私には、幸せな家庭を築き、その家族と笑顔をつくる、家族とともにお店を開いて周りにいる人たちに笑顔を与えるという夢があります。その夢に向かって何ができるだろうと考えているとき、会社の先輩からこの活動を教えてもらいました。夢を実現させるにしても、まず私たちの将来が保障されていることが大前提です。戦争する国になってしまったら、笑顔をつくれなれないと思い、参加しました。

私の祖父母は戦争中の生まれです。家には兵隊のお墓もあります。私の先

輩や後輩は今、自衛隊にいます。集団的自衛権はひとことでないと感じています。

みんなが声をあげても、全然聞いてくれない安倍政権に不信感を抱いています。

祖父母から父母へ、そして私に引き継がれたこの命。武力によって脅かされるのは、絶対に嫌です。私の大切な人を戦争に行かせるのは嫌です。

未来を生きていくのは私たちです。歴史を繰り返さないためにも、声をあげたいと思います。

(7月25日、長野市の集会で)

## デートの日、でも僕はここに来た

◇22歳の男性(学生) 本当は今日、デートのはずだったんです。戦争法案って、戦争するってことなんで、僕たち若者が戦場でこき使われて死ぬってことなんで、「デートなんてしている場合じゃないな」って思って来ました。

新聞に「テロで120人が死んだ」と書いてあったけど、そういうことが簡単に起きる世の中です。僕の友達にも自衛隊員がいます。安倍晋三という怪物の孫に、自衛隊員が勝手に連れて行かれる。そうなったら、とても恐ろしいことだと思います。

僕も奨学金を借りて大学に行っているんですが、もし経済的な徴兵制がやられたら、僕にも火花が飛んでくるかなって考えました。9条を守って、安倍政権を倒して、行動を起こすべきです。

日本は1億人の国で、いろいろな人間がいるのに、僕たちの声には耳を傾けず、採決してしまおう。それはおかしい。この国をどうにか変えていきたい。だから行動しましょう。来週はデートに行きたいです。

(7月19日、松本市の集会で)

## 自由と平和のため 声あげるとき

◇26歳の男性(村職員) 声を出していかなければ、この国は変わっていかないんじゃないかと思っています。

正直、自分がここに立つ日が来るとは思っていませんでした。こんなところに出て、不安な気持ちがあります。でも権力者の暴走を止めるのは私たち、主権者一人ひとりです。自由と平和のために、不断の努力をする時が来たんだと思っています。

では何をすればいいんでしょうか。分からなくて、悩む毎日ですが、今日ここで、平和を守りぬきたい、戦争法

案に反対するという皆さんと一緒にいられることを幸せに思います。戦争になれば、もっと恐ろしい思いをする人がでてくるでしょう。それを思えば、ここで声をあげることはささいなことだと思います。

難しいことは分からないんですが、人が殺し殺されるのは見たくないし、その話を聞くことも嫌です。真の平和を願って、何が悪いんですか。戦争を嫌って、何が悪いんですか。この声を広げていこうではありませんか。

(7月17日、阿智村の集会で)

戦争法案  
反対集会

若者スピーチ胸を打つ

お/お